

生涯発達心理学

第3回

第3講 生涯発達心理学の理論

生涯発達のプロセスと発達課題

Remove Watermark Now

- エリクソンの心理社会的発達課題
- ライフサイクルとライフコース
 - ・ライフサイクル
 - ・ライフコース
- 中年期以降の発達に関する理論
 - ・活動理論と離脱理論
 - ・老年的超越

エリクソンの心理社会的発達理論

Remove Watermark Now

人間の発達を社会的文化的影響の重要性を指摘し、「乳児期」「幼児期初期」「遊戯期」「学童期」「青年期」「前成人期」「成人期」「老年期」8段階に分け、ライフサイクルを論じている。

人間の発達には生まれながらに備わっている成長発達のプログラムがあり、それがさまざまな刺激によって**相互作用**的に漸次発現してくるという漸成論の立場にたっている。

ライフサイクルにおける課題と危機

Remove Watermark Now

各段階において達成しなければならない心理社会的危機・人生課題を設定

○乳児期

「基本的信頼 対 基本的不信」

○幼児前期

「自律性 対 恥，疑惑」

○幼児後期

「自主性 対 罪悪感」

	1	2	3	4	5	6	7	8
I 乳児期	信頼 対 不信							
II 幼児前期		自立性 対 恥・疑惑						
III 幼児後期			自主性 対 罪悪感					
IV 学童期				勤勉性 対 劣等感				
V 青年期	時間展望 対 時間拡散	自己確信 対 同一性意識	役割実験 対 否定的同一性	達成の期待 対 労働麻痺	同一性 対 同一性拡散	性的同一性 対 両性的拡散	指導性と 服従性 対 權威の拡散	イデオロギー への帰依 対 理想の拡散
VI 成人前期						親密 対 孤立	↓	↓
VII 成人期							生殖性 対 停滞性	↓
VIII 老年期								統合 対 絶望

図3-2-1 エリクソン心理社会的発達段階

(鐘ら 2002を改編)

○児童期

「勤勉性 対 劣等感」

○青年期

「同一性 対 同一性の混乱」

○成人前期

「親密性 対 孤立」

○成人後期

「生殖性 対 停滞」

○老年期

「統合性 対 絶望」

第9の段階

エリクソンと彼の妻であるジョウン(Erikson,J.M.)は80歳代～90歳代以上を念頭におき(明言しているわけではない), 第8段階とは異なる「第9の段階」の存在について触れている。

その日その日を無事に過ごせることが全ての
関心の焦点

ライフサイクルとライフコース

Remove Watermark Now

ライフサイクル(人生周期)

人間の生命や人生の成長にはいくつかの段階があり各段階は相互に関連した一連の連鎖を形成しているという基本概念で説明

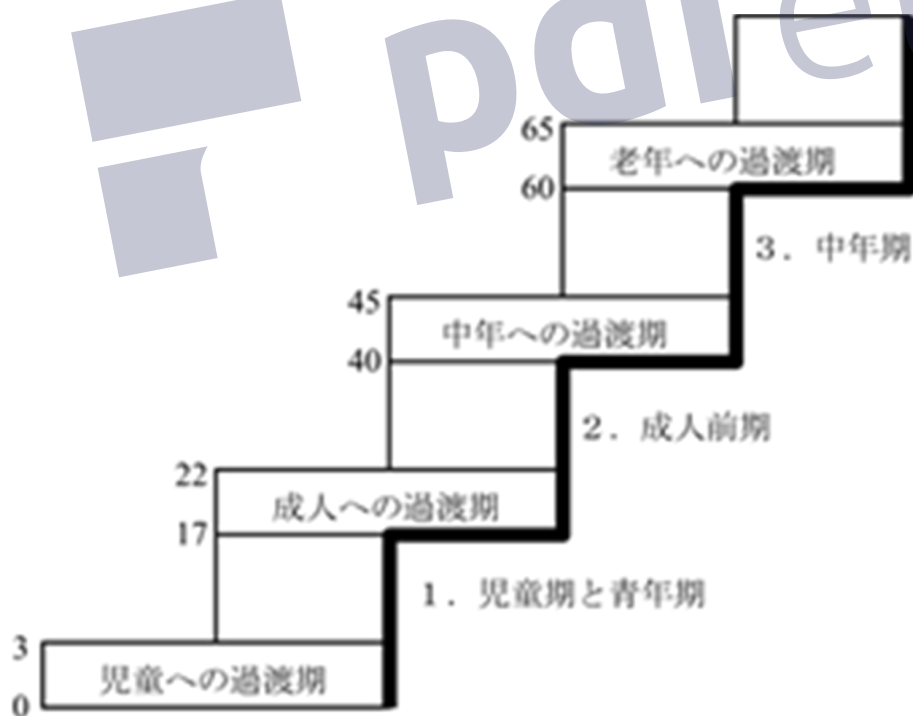
家族周期(family life cycle)

家族の形成から消滅までを規則的な変化としてとらえ、結婚、子どもの誕生と成長、定年退職、死別などによって段階区分されという考え方

レビンソンのライフサイクル論

Remove Watermark Now

レビンソンのライフサイクル論では中年期に転換期を迎えるとしているが、その背景として生物学的な変化よりも社会的発達の反映と考えている



レビンソンは人生を“四季”にたとえて説明

家族周期

Remove Watermark Now

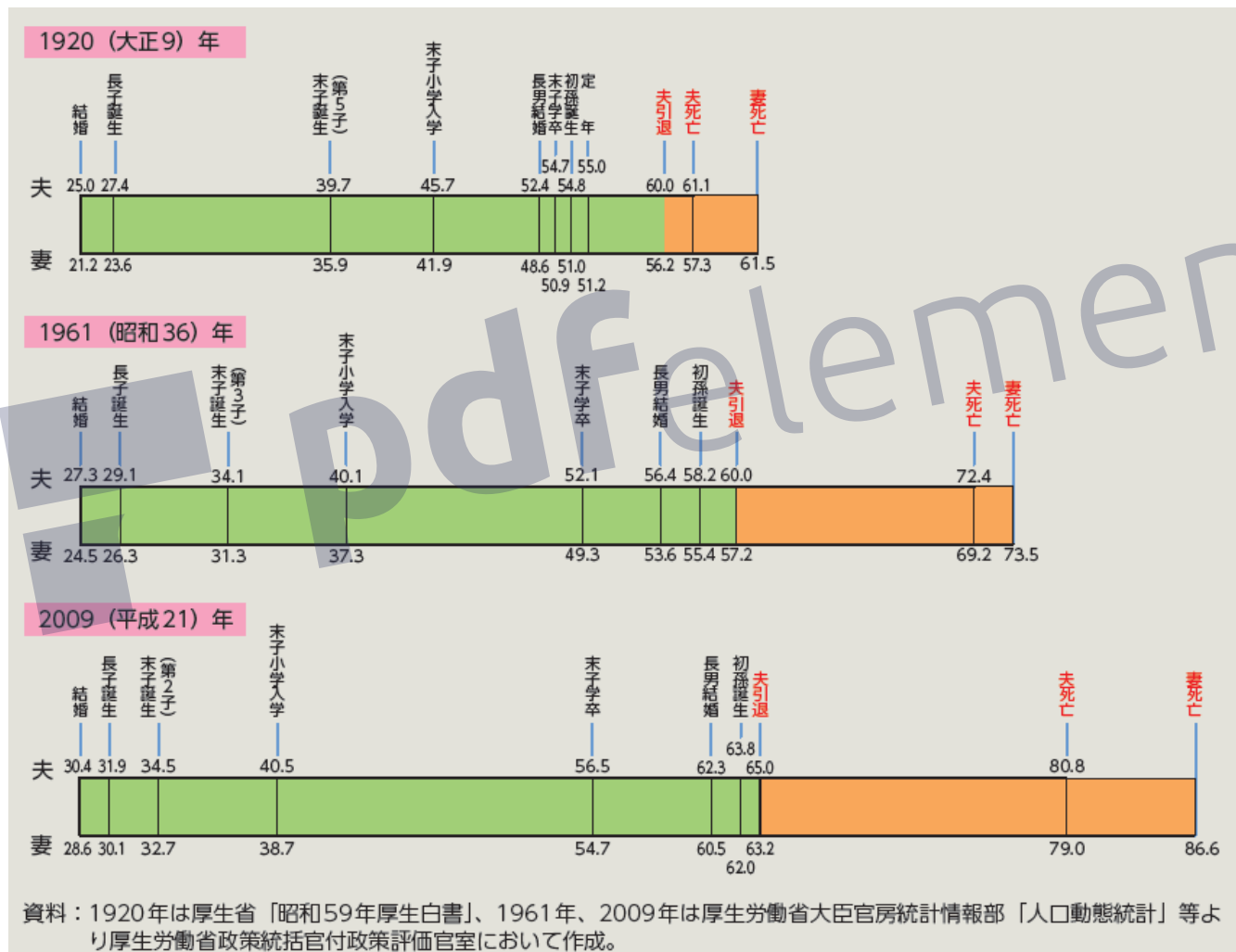


図 3-2-1 平均的なライフサイクル（24年度版厚生労働白書）

ライフコース

Remove Watermark Now

主体を個人におき、人々が持つ役割、経験する出来事、歴史的イベントなどを重視し、個人のさまざまな人生を明らかにしようとするもの

⇒誕生から死までの発達のすべてのプロセスを包含する複雑な構成概念

一生涯における「人生上の出来事(ライフイベント)」と「社会的役割」の加齢にそった「配列」に見られる社会的パターン

(Giele, J.Z. & Elder, G.H. 1998)

実際のライフコース研究では同じ時代に同じ地域に生まれた集団であるコーホートに着目し個人資料をそれぞれとにまとめていくことが必要となる

エルダーとクローセンの ライフコース論

Remove Watermark Now

「ライフコースとは年齢によって区別された、一生涯を通じてのいくつかのトランジェクトリ(軌道・人生行路)、すなわち人生上の出来事についてのタイミング、持続時間、配置および順序に見られる社会的パターンである」(Elder, 1985)

クローセンが特に重要視したのは個人が果たす役割で、それが個人と社会をつなぐものと論じている。この役割がうまく演じられるかどうか、社会化が成功するか否かは個人的・社会的資源と歴史的状況によって影響される

中年期以降の発達に関する理論

成人や高齢者を研究する理由

- ①この複雑な社会にあっての人間の本質を理解するため
- ②より多くの人が以前より長生きするようになったこと
- ③実践的理由によって研究の必要性が増えたこと
- ④すべての人間は年老いていくように運命づけられていること

(Kimmel,D.C. 1974)

エイジング(aging)

「病気や外的な影響による変化とは区別された、人生後半の変化パターン」(Birren,J.)

人生後半の変化を自然なものとしてとらえようとする中性的な言葉としての性格が強い

ビューラー (Bühler) ら

0歳～15歳までを前進的成長期

15歳～25歳を生殖に伴う安定期

25歳～45歳を安定的成長期

45歳～65歳を生殖能力の喪失期

65歳以上を成長の退行と生物学的衰退期

伝記に書かれた人生コースと生物学的人生
コースとの類似性への関心から示された

孔子「論語」から

Remove Watermark Now

子曰、

吾十有五而志于学、

三十而立、

四十而不惑、

五十而知天命、

六十而耳順、

七十而從心所欲、

不踰矩。

先師孔子行教像



ユング (Jung, C.G.)

Remove Watermark Now

人生前半の強い自我を確立して行くプロセスよりも、人生後半の方が重要であるとするライフサイクルを意識

○重要な転機が35歳～40歳の中年期に訪れる

老年期のあり方

過去に根ざした独特の精神的変化が起こると考え、特に「対極へ変化する」ことを指摘

活動理論と離脱理論

活動理論

活動理論とは引退後の社会の中で活動的であることが老年期の幸福につながるという考え方

離脱理論

死の受容のためには社会的な役割からの緩やかな離脱と社会的相互作用からの撤退が個人にも社会にも望ましいという考え方

老年的超越(Tornstam,L. 1989)

「老年的超越」とは高齢期に生じる価値観や心理・行動の変化であり、トルンスタムは「物質的で合理的な世界観から、宇宙的で超越的な世界観への、メタ認識における移行」と定義

表3-2-1 老年的超越の3つ領域と内容

Remove Watermark Now

社会的・個人的関係の領域 The Dimension of Social and Personal Relationships

- ・関係の意味と重要性の変化: 表面的な関係に対して選択的になり, 関心が減少する。また, 一人でいる時間の必要性が増す。
- ・役割: 自己と定められた役割との違いを理解する。時には役割を放棄しようとする。
- ・解放された無垢: 無垢が成熟を高める。必要ない社会的慣習を超越する新たな力である。
- ・現代的禁欲主義: 財産の重さを理解しつつ, 禁欲主義から自由になる。現代の定義での生活必需品を十分に持ち, それ以上は持たない。
- ・日常の知恵: 善悪の表面的に区別することに気が進まなくなり, 判断や助言を控えることを認識する。善悪二元論を超越し, 幅広い考え方と寛容さが得られる。

自己の領域 The Dimension of the Self

- ・自己との対面: 自己の隠された側面—良い面も悪い面も—を発見する。
- ・自己中心性の減少: 最終的には, 世界の中心から自己を取り去ることができるようになる。
- ・身体の超越の発達: 身体の手話は続けるが, 身体にはとらわれなくなる。
- ・自己の超越: 利己主義から利他主義へと移行する。
- ・自我の統合: 人生のジグソーパズルの一片一片が全体を形作ることに気付く。

宇宙的領域 The Cosmic Dimension

- ・時間と子ども時代: 時間の定義が変化し, 子ども時代に戻る。過去と現在の境界の超越が生じる。
- ・過去の世代とのつながり: 過去の世代への親密感が増す。個人間のつながりから世代間のつながりへの見方の変化を自覚する。
- ・生と死: 死の恐怖が減少し, 生と死に対する新たな認識が生じる。
- ・生命における神秘: 生命における神秘的な領域を受け入れる。
- ・喜び: 大きな出来事から些細な経験に喜びを感じる。小さな宇宙の中に大きな宇宙を経験する喜びが現れる。